



**県内4球団で発足 全国初の連携事業**

県内に本拠地を置く埼玉アストライア、埼玉西武ライオンズ、戸田中央総合病院メディックス、武蔵ヒートベアーズの4球団が20日、全国初の取り組みとなる野球・ソフトボールの連携事業「PLAY-BALL! 埼玉」プロジェクトをスタートさせた。

プロジェクトは、野球・ソフトボール競技者の減少という問題意識を共有する4球団が、子どもたちに「体験するきっかけ」を提供。スポーツの楽しさを感じてもらい、地域を目的として、各球団の本拠地地域を中心に訪

会見に臨んだ(左から)埼玉アストライア・川端友紀、埼玉西武ライオンズ・炭谷銀仁朗、戸田中央総合病院メディックス・田中江理奈、武蔵ヒートベアーズ・関口寛己。20日、所沢市内(土沢貴弘撮影)

**野球・ソフトの楽しさ知って**

「公園で野球が禁止され、野球をするのができない」というファンの子どもの手紙から、プロジェクトの呼び掛け人となった炭谷は「県内の球団とタッグを組むことでこれまで以上に色々な取り組みができる」と考えている。精いっぱい頑張りたい」と意欲を語った。

(土沢貴弘)

**ライオンズなど県内4チーム連携**

県内の野球・ソフトボールの四チームがタッグを組んだ。プロ野球「埼玉西武ライオンズ」、女子プロ野球「埼玉アストライア」、女子ソフトボール「戸田中央総合病院メディックス」、プロ野球独立リーグ「武蔵ヒートベアーズ」は二十日、所沢市上山口の獅子ビルで共同会見し、子どもたちに競技の楽しさを知ってもらうためのプロジェクト「PLAY-BALL! 埼玉」をスタートさせると発表した。(加藤木信夫)



子ども向けレクリエーションの使用球を手にもってポーズをとる。(右から時計回りに) 関口寛己、田中江理奈、川端友紀、炭谷銀仁朗の4選手。いずれも所沢市で

**野球・ソフト 楽しいよ**

プロジェクトチームによると、都道府県レベルでは初の試みで、第一弾は六月、和光市内で実施予定という。

取り組みのきっかけは昨年、ライオンズ選手会長の炭谷銀仁朗選手(念)に寄せられた一通のファンレター。「子どものお母さんから、近くの公園で野球が禁止され、やりたくてもできないと訴えていました」。炭谷選手は球団を通じて、中学生以下の競技者がこの数年、急激に減少して二〇一〇年以降、小学生で約五・八万人、中学生で約一〇・六万人減というデータ(日本野球協議会など調べ)があることも知った。公園での野球制限や、指導者不足が背景にあるという。

炭谷選手の危機意識が球団を動かし、球団を通じて県内の野球・ソフトボール

**普及へ取り組みを開始**

団体にも波及して、今回のプロジェクト発足へとつながった。

プロジェクトの対象は、両競技への関心が薄いとされる小学生以下の児童と保護者、教員など。訪問先としては幼稚園や保育園、小学校の体育授業、教員や保護者向けの指導法講座などを想定しているという。

多彩なレクリエーションを、OBを含む選手らが実施していく。クラブなど費用のかかる用具は使わない。ボールも握るとつぶれる軟らかさのボール

「公園で野球が禁止され、野球をするのができない」というファンの子どもの手紙から、プロジェクトの呼び掛け人となった炭谷は「県内の球団とタッグを組むことでこれまで以上に色々な取り組みができる」と考えている。精いっぱい頑張りたい」と意欲を語った。

(土沢貴弘)



子ども向けのレクリエーションで使用される、握るとつぶれる軟らかさのボール

**投げる、打つ まず体験を**

「子どもは、なかなかそうできない。結果として投げ方を知らない子もいる。何とかプロジェクトを成功させて、男女の関係なく、野球とソフトボールを普及発展させていきたい」。戸田中央総合病院メディックスの田中江理奈副主将(三)、武蔵ヒートベアーズの関口寛己主将(三)も「地域の子どもたちに野球の楽しさを伝えたい」「四球団が一緒になって取り組もう」「それが競技人口増につながる」と口々に訴えている。